



▲湖面に、在りし日の集落のあかりがともりました

桂川流域の治水・利水対策として平成10年に建設された日吉ダム。その水をたたえる天若湖の下に水没した5集落（宮村、世木林、沢田、楽河、上世木）の生活文化があったことを忘れてはならないと、京都造形芸術大学の学生などが中心となって、かつて民家があった場所にあかりをともしました。地形や水位によって設営可能な4集落74戸分の太陽光充電式ライトを設置。夕暮れとともに湖面にあかりが浮かび上がり、静かにその記憶を照らしていました。

「^{あまわかこ}天若湖にともる、忘れじのあかり」

（8／9 天若湖アートプロジェクト2008・あかりがつなぐ記憶）

「音頭、手拍子、ヤットコシヨ」

八木町夏まつりが実行委員会主催で開催されました。昼間には、大堰川緑地公園の親水池での魚つかみ大会、夕暮れには市役所八木支所駐車場で踊り大会が盛大に行われました。

踊りの会場では、当て物やゲームの店が並び、およそ300人の子どもや家族連れで大にぎわい。よさこいの踊りが景気をつけ、音頭取りが節をまわし始めると、やぐらの周りに八木の里音頭や丹波音頭など踊りの輪ができました。



▲子どもからお年寄りまで一つの連になって踊りました

（8／10 八木町夏まつり）

「夏の美山で多彩なイベント堪能」

（8／15 第25回清流美山の鮎まつり）



▲竹内監督がつくもちつきに行列ができました

美山町自然文化村を会場に、美山の夏の風物詩「鮎」をテーマに祭りが開催されました。河原では、鮎とうなぎのつかみどりに、大人も子どもも大はしゃぎ。早速、会場で塩焼きにした鮎に舌鼓を打つ姿が見られました。また、同文化村施設を練習場として使用している社会人野球チーム「京都ファイアーバース」のメンバーも応援に駆け付け、竹内和也監督兼投手が季節外れのもちつきにきねをふるいました。熱気さめやらぬ夜には、灯ろう流しや花火大会が美山を彩りました。

「^{たくみ}匠の技に挑戦！工芸体験と鮎つかみ」

（8／2 夏休み1日子供チャレンジキャンパス）

夏休みを利用して、自然いっぱいの美山で、ものづくりと川遊びを体験する講座を、NPO法人「京都匠塾」・京都伝統工芸大学校・美山町自然文化村が共催で開催しました。

手びねりによる陶器作り、ゴムのスクリーンで水の上を走る木の舟作り、竹の虫かご作りなど、8月2日、4日、8日の3日間で63人が、指導を受けながら真剣な表情で工芸体験にチャレンジしました。

午後、自然文化村近くの美山川で鮎のつかみどりに挑戦し、ふるさとの夏の味覚も堪能しました。



▲匠の指導を受け、真剣な表情で竹の虫かご作り